

小中学校再編計画(原案)説明会 当日質疑応答

**令和7年8月
桑名市**

1 小中学校再編計画（原案）説明会での質疑応答

1.1 小中学校再編計画説明会の開催

小中学校再編計画原案について地域の皆様からご意見等をお聞かせいただく場として、小中学校再編計画説明会を下記日程で開催しました。

表 小中学校再編計画説明会の開催日程

	学区	日程	場所
1.	光風学区	5月31日（土曜日） 10時00分～11時30分	くわなメディアライヴ 多目的ホール
2.	成徳学区	5月31日（土曜日） 13時30分～15時00分	くわなメディアライヴ 多目的ホール
3.	陽和学区	6月1日（日曜日） 10時00分～11時30分	くわなメディアライヴ 多目的ホール
4.	明正学区	6月1日（日曜日） 13時30分～15時00分	くわなメディアライヴ 多目的ホール
5.	光陵学区	6月7日（土曜日） 10時00分～11時30分	大山田まちづくり拠点施設 （大山田複合施設）2階会議室
6.	陵成学区	6月7日（土曜日） 13時30分～15時00分	大山田まちづくり拠点施設 （大山田複合施設）2階会議室
7.	長島学区	6月8日（日曜日） 9時00分～10時30分	長島防災コミュニティセンター
8.	正和学区	6月8日（日曜日） 14時00分～15時30分	正和中学校体育館

1.2 当日の質問及び意見と回答

当日参加者の方から頂戴した質問や意見について、説明会の開催日及び発言順に整理し、その回答を次ページ以降に一覧で示します。（なお、質問内容及び回答については事務局にて精査を行ったことから当日の表現と異なる場合があります。）

1) 質問/意見と回答

自由意見（質問）	市の回答
今回の再編計画で平均の通学距離、最長の通学距離や時間をどのように考えられているのか？ 一定距離を超えた場合にはスクールバスが出ると思うが、どれくらいの時間を想定されているのか？ 小学生だと4キロ、中学生だと6キロと、それぞれ1時間前後と1時間半弱かかると思うので、それが現実になるとかなり時間が必要になると思うが、その件に関してどのように考えているのか？	スクールバスを適用する地域はまだ決定していません。具体的に再編が進む過程において検討されていくものと考えています。また、通学路は通学距離だけではなく、通学路の安全性・高低差等を総合的に考え、保護者や地域、教職員など、関係者の方々と協議の上、決定していきたいと考えています。
学童保育所について、現在小学校に併設されて設置されているが、どのような方向性でお考えか？	学童保育所については、各地域で様々な形態で運営されているため、今後、具体的に再編が進む過程において、市子ども未来部と連携し、判断されていくものと考えています。
地域に対する配慮とは？具体的な配慮を教えてください。地域社会が崩壊しないように、地域一体の小中一貫校など果たしてできるのか？	地域に学校がなくなるからと言って、地域と学校の連携や協働が弱まることはあってはならないと思います。小中一貫校では様々な地域の力を活かした教育環境に取組み、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。
跡地のことも配慮すると書いてあるが、避難所である小学校がなくなったらどこへ逃げるのか？	廃校後の利活用については地域での利用ニーズ（避難所の役割等）を伺い、学校施設のみではなく公共施設としてどのように活用していくかを検討していく必要があります。
資料17ページの令和4年度に実施されたアンケートについて。およそ8割の方が再編を求めているというふうに受けとったが、実際にアンケートを読み解くと、『早急に市全体を対象にした計画を立てて、積極的に学校再編をすすめるべき』が、1割～2割ぐらい。これは逆に言ったら、早急に市全体を対象としてほしいなと思っているのが1割で、別に市全体は求めていないというのが9割と読み取れる。桑名市民の9割の方は必要なところだけしたらいいんじゃないのっていう意見があると思うが、その点についてどう思うか？	市としては、令和4年度に行いましたアンケートについては、児童生徒数の減少が推測される中、子どもたちが学びやすい学校規模にするために今後どのようにすることが望ましいかという問いへの回答として「学校再編を推進・容認する割合が7～8割を占める結果である。」という認識です。
令和4年度に行っているアンケート結果について、どのように行われたのか？どの程度の回答規模で、対象者は載っているけれども、その回答率であるとか、全体の回答者数なども明示していただきたい。	桑名市ホームページで「桑名市立小中学校に関するアンケート調査結果報告書」を掲載しています。
義務教育学校について、つくば市では先進的にやってきたが、義務教育学校を増やさないということを決めたということが、情報として入っている。そのことについて、それでも桑名市ではこの計画を進めていくべきと考えているのか、その辺りの整合性であるとか、あとこの配慮すべき事項の中に、そもそも教育環境として、適正な教育環境の確保というの、ぜひ説明に加えていただきたい。	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
義務教育学校を推進していくうえで、様々なデメリットがあると情報として出てきたが、今回の説明会での資料に一度もデメリットについての話しが無く、なぜ全市一律で義務教育学校ありきで検討されているのか？	市においては、今後の市全域の学校再編を進める中で、児童生徒数の減少、校舎の老朽化、小中一貫教育の推進、また、校長1人に権限と責任を集約することで、学校運営の舵取りがしやすいことなど、さらには平成29年桑名市学校教育あり方検討委員会からの答申及び多度学園開校までにおける様々な協議を背景に、市教育委員会が総合的に判断し、義務教育学校を設置する計画となっています。
資料でも子どもたちの安全と記載があったが、「学校が造れるエリアがあるから造る」という考えは、すごい大人の発想だと思っていて、子どもたちに寄り添っていないと思います。津波や地震があった場合のことを考えていますか？	学校施設の避難場所としての機能発揮の可能性を踏まえ浸水地域内にも整備候補地を選定しています。なお、浸水区域の学校施設については、対策が必要であると考えており、新しい学校を建設する際には、考慮したうえで進めていくこととなると考えています。
子供の意見表明についてどう考えているのか？	現在、子どもたち向けの説明動画を作成中です。子どもたちの声を伺う準備をしています。
多度学園の設計について、専門の先生にみてもらうと、色々な意見が出ているが、事前にしっかりと確認すべきではないか？	多度学園は開校に向けて、教職員を含め、様々な方に参画いただき、検討、協議の上、令和8年4月に開校します。再編計画は多度地区での進め方を踏まえ策定をしています。
予算についてどう考えているのか？子どもたちの人数が減ってくる＝総人口も減ってくるということ。収入も減ってくる中でどうやって莫大な金額がかかる（多度学園が100億円超えているという情報が来ている中で）ものを造っていくのか。将来の子どもたちに、この少ない子どもたちにこの負債がかかっていくということをきちんと考えて、計画を作っているのか？	総事業費については、建設時期、再編の順番によってその規模が大きく変わるため、現段階での試算は行っていません。再編が進む中でお示しできるものと考えています。修繕費が年々増加する中、再編して新たな学校を建設する方が、長期的には財政負担の軽減につながります。
児童生徒数減少というところが問題になっているのであれば、そこを対策していく必要があるのでは？費用の話が出ていたが、合併するにあたって新しい校舎を建てるとするが、そこにかなり費用がかかる。そこに費用をかけるのではなくて、実際、児童が減少している対策として、そちらに費用を充てたりなど考えるべきでは？	市では、「桑名市人口減少対策パッケージ“14”万リバウンドプラン」として、人口減少の対し、生産年齢人口の「流入促進」「定着環境整備」「流出抑制」の3つのフェーズに応じたそれぞれの施策に取り組んでいます。
仮に児童数の減少が無かったとすれば、学校施設の老朽化というところを修繕していけばすむ話では？	令和5年に実施した市内の児童生徒数の推計結果において、想定を超えるスピードで児童生徒数が減少していくことが結果として推測されました。市においては、今後の市全域の学校再編を進める中で、児童生徒数の減少、校舎の老朽化、小中一貫教育の推進、また、校長1人に権限と責任を集約することで、学校運営の舵取りがしやすいことなど、さらには平成29年桑名市学校教

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	育あり方検討委員会からの答申及び多度学園開校までにおける様々な協議を背景に、市教育委員会が総合的に判断した結果です。
スライドにあった通り、精義小学校では児童数の減少というのをひしひしと感じている。各学年一クラスで子どもたちのコミュニティが少ないように感じている。学校の老朽化も、トイレとかもものすごい汚くて、子どもたちがこんなトイレで嫌だというふうに言ったりとかするので、施設の老朽化というのを感じている。 一方で、小中一貫の話がすごく大きすぎて、課題が進行している上での考えだと思うが、小学校同士の統合についてのお考えとか、シミュレーションをされたのかどうか？	市では「望ましい学校教育のあり方について」の答申に基づき、令和2年度から小中一貫教育に取り組んでいます。小中一貫教育の更なる充実を図るため、小中学校再編計画では小学校だけの統合は考えていませんが、具体的に再編が進む過程において判断されていくものと考えています。
少子化になってきているというのを考えるとこれで行くしかないと思う。今後もう少し細かいところが決まってくると思われるが、それぞれの学校を7校にするっていくことは、施設が老朽化しているので、統廃合をして、例えば複合化をすると公適債が使えとか、そういった部分もあると思う。少なくすることで学校を充実していくということで考えてよろしいでしょうか？	新しい施設は複合化であったり、色々な手法を用いながら、充実を図っていきたいと考えており、地域の皆様のご意見を十分反映していきたいと考えています。
本来の施設の老朽化と学校再編と、小中一貫教育、施設一体型っていうのは3つ別の問題だと思う。結論ありきで施設一体型の義務教育学校というふうに決まっているのでは。 市に都合のいい意見を述べてあるだけで、ほとんど根拠というのは載っていない。比較して失礼ですけど、外で配っていた反対派のチラシのほうがよく丁寧によくできていると思います。	ご意見としてお聞きします。
児童・生徒が減ることと小中一貫とは全然別物。小学校の授業時間と中学校の授業時間がずれていくことも問題。一つの中学校に持っていくのはあり得ないと思う。	ご意見としてお聞きします。
子どもが小学生と中学生ですので、この計画は自分の子どもがかかわってくることなのかなというのが気になるころではありまして、一番最短でもう何年後ぐらいにこういう、新しい小中一貫校が開校するものなのか？	多度学園では、一から検討を始めて10年、基本構想基本計画策定から6年かかっています。市では保護者、地域等のご理解ご協力を得ながら1年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、そのためには、再編の要望をいただいた地域から進めていければと考えています。
使われている数字がそれぞれ違っている。どうして13年とか20年とか25年とか43年とか統一がないのか。教育委員会が説明をするために、資料を作るのに都合のいい数字を都合のいい時に使って、統一性がなくて読みづらい。 中学校も生徒についての現時点と令和45年時点の比較記載がない。	ご意見としてお聞きします。
深谷町の児童生徒が多度学園に通うことは可能なのか？深谷から光風も多度もほぼ同じ距離。多度に行きたいと言う住民もいる。	多度学園のキャパ等々があり、すぐには難しいかもしれませんが、実際に学校再編を進めていく際には、地域の声、実態に基づきながら見直しということも考えていき

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	いと思っておりますので、ご意見としてお聞きします。
耐用年数 47 年を経過した学校がたくさんあるのであれば、すぐに建替えすればいいのでは？学校内の生徒への影響よりも、生命の方が大事では？	学校校舎の老朽化以外の課題の解決が図られないこと、同一敷地内の建設は教育活動に支障を生ずることから、現在の学校をそのまま建て替えることは考えていません。
重いランドセルをもって何キロも歩かせるくらいであれば、騒音の方が我慢できるのではないかな？	学校校舎の老朽化以外の課題の解決が図られないこと、同一敷地内の建設は教育活動に支障を生ずることから、現在の学校をそのまま建て替えることは考えていません。
学校の問題だけでなく、地域の問題が大きい。地域の市民の意見を聞かずに 40 年後の未来まであなたたちに決める権利はない。	ご意見としてお聞きします。
多度学園が運用されていない状況で、小中一貫校にするための良い点と悪い点、問題点の検証はどのようにされたのか。それが終わってないのに、他地区の計画をなぜ出してきたのか？	令和 5 年に実施した市内の児童生徒数の推計結果において、想定を超えるスピードで児童生徒数が減少していくことが結果として推測されました。多度学園が令和 8 年 4 月に開校し、検証は行ってまいります。そこにはかなりの期間を要することになります。その期間を経て、計画を作り出してはさらに期間を要することになります。市としては、1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、学校再編計画の策定は進めてまいります。なお、計画後、再編を進めていく過程において、多度学園の検証結果は反映いたします。
小学校というのは地域コミュニティの上になりたっているもの。中学校はその隣り合うコミュニティが協力し合って、次の段階へ発展的に子どもたちが伸びていく場所。その後、義務教育が終了した後に受験をもって高校というところに進学するという仕組みになっているのが今の教育制度だと思う。地域コミュニティの考え方をどのように策定していくのか、それが一番の問題ではないか？地域ごとにコミュニティの違いがこれだけある場所を 1 つにまとめて、どういうふうに統一した考え方でもっていけるのか理解できない。市としての考えであるならば、関連部局との話し合いがなされていないと、この話はまとまらないのではないかな？	今後、具体的に再編が進む過程において、市関連部局と連携し、協議、検討してまいります。
小中一貫教育、そして義務教育学校の統廃合ということで、教育の問題が一体どうなっていくのか、この説明にはほとんどなかった。教育は箱ものづくりではなくて、安上がりの教育を目指してはいけない。跡地問題について、本当に地域のためになるような施設として整理をしてもらえるのか。そうした説明が 1 つもない。説明会は市がもしくは教育委員会が、周囲に対する形式的な説明の場に終わらせるものではなく、この場の皆さんの意見を受けとめて、市政・教育行政に反映させるように努力して欲しい。	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
市の教育委員会として学校の統廃を考える場合は、小中一貫校としか、考えられないとのことだが、愛知県は中高一貫校というのが創設している。今後、市の教育委員会としては中高一貫校についてどういうふうに考えているのか。	小中一貫、中高一貫それぞれに良さがあるものと考えておりますが、高校の管轄は三重県であり、中高一貫校については県の意向が大きくなります。
小中一貫校にすることで、国からの補助金や財政的なメリットがあると聞いているが、今回の再編は、こうした制度の影響をどの程度受けているのか、子どもの教育や育児の姿勢が本当に最優先されているのかどうか、改めて確認したい。	再編計画の基本方針にも記載したように、本計画については子どもたちにとってより良い教育環境を実現することが最重要項目であると考えています。
他の自治体の失敗事例や課題について、市としてきちんと把握し、住民に共有する責任があると思うが、どのように考えているのか？	他自治体における課題などは把握した上で、運営面での工夫等により改善ができると考えております。失敗及び成功事例については、他自治体と本市における状況が異なる点から発生している課題も見受けられることから、資料としては作成していません。
学校の規模が大きくなるので、子ども一人一人に目が届きにくくなるのではないかと心配している。市として具体的にどのような対策や支援体制を考えているのか？	1学年に複数学級あることで、多くの教職員がチームとなり、多くの眼で子どもたちを見ていくとともに、少人数指導や複数の教員が役割を分担し、協力して指導する授業方式（ティームティーチング）などの指導法を活用することで、個々への対応も確かなものとすると考えています。
予算の担保はなしか？	予算の担保はありません。
分散進学の実現の時期はいつか？一体型の施設ができてからということになるのか、それより前に段階的に解決できるのか、であるならばいつからなのか？	本市は自治会ごとに学校の通学区域が定められており、その中で複数の中学校へ進学している分散進学対象の小学校が6校あり、このことで学校、地域、家庭の連携に影響が生じています。分散進学の実現は学校再編を進めていく中で行っていくことを考えていますが、分かれて進学することの子どもたちの不安をなくすためにも1年でも早く子どもたちにとってより良い教育環境を実現することができる小中学校の再編を行いたいと考えています。
資料の23ページに計画作成にあたり配慮すべき事項というのが4項目書かれております。この課題につきまして、今回は中学校地区での説明会だが、分散進学や跡地利用の部分につきましては、各小学校単位の協議が今後の課題になると思う。要望として今後、各小学校単位でのこのような説明会を開催していただきたいことと、ここにありません配慮すべき事項、今後どういうふうになるのかという、詳細な計画をその小学校単位の説明会でご説明いただくことを依頼したい。	ご意見としてお聞きします。
再編する順序について優先順位みたいなところが決まっていれば教えて頂きたい。逆にどこは優先して再編していきたいとかがあれば教えて頂きたい。	現時点で、具体的にどこから学校再編が行われるか、何年かかるかも現時点では決定していません。多度学園では、一から検討

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	を始めて 10 年、基本構想基本計画策定から 6 年かかっています。多度学園での進め方を踏まえた上、基本構想である小中学校再編計画を策定し、保護者、地域等のご理解ご協力を得ながら 1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、このような形で進めております。地域からの要望を重視しますが、重複した場合は児童生徒の減少数や老朽具合も考慮し、最終的には市で決定します。
多度地区が、9 年から 10 年かかって その成功失敗事例をもう少し考えながら 広げていった方が義務教育学校は成功すると思うが、市の考えは？	令和 5 年に実施した市内の児童生徒数の推計結果において、想定を超えるスピードで児童生徒数が減少していくことが結果として推測されました。多度学園が令和 8 年 4 月に開校し、検証は行ってまいります、そこにはかなりの期間を要することになります。その期間を経て、計画を作り出してはさらに期間を要することになります。市としては、1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、学校再編計画の策定は進めてまいります。なお、計画後、再編を進めていく過程において、多度学園の検証結果は反映いたします。
人数の多い光風や陵成のあたりというのは再編の順序は後の方になると思うが、まだ何も決められていないということとか、地域の人からお話を伺いたいとか市の進め方・考え方として疑問。	ご意見としてお聞きします。
心配不安をないがしろにして 着々と 実施に向けて 進んでいかないとは思いますが、大変危険と考える。地域環境が違うが、多度学園をモデル校として 検証した上で、今後市民と何度でも 意見交換の場を 持ってほしいと考える。	ご意見としてお聞きします。
資料 22 ページの小学校 6 年間中学校 3 年間でいろんなまとまりで考えられるという説明がよく分からなかった。個人行動になるか クラス行動になるか 学年行動になるか どのように分けを変えていくのか？	小学校 6 年間を低学年、中学年、高学年というまとまりに分けるように、義務教育 9 年間で子どもの心身の発達段階に応じて学年の区切りを考えることができます。現在、市では、市内全域で小中一貫教育を進めており、前期 4 年間で学習の基礎基本の定着を図る期間、中期 3 年間で小中の円滑な接続を図る期間、後期 2 年間で自分の課題を解決する力を育成する機関と位置付けています。多度学園では 4－3－2 の学年段階の区切りを意識した学校づくりを進めていきます。なお、この学年の区切りにより子どもたちの学習内容が変更されることはありません。
望ましい小学校の学級数という欄に 2, 3 クラスっていうのが一番多いということですが、光風学区は 令和 45 年度に臨む学級数となるということは理解できるが、それまでの間がかなり大規模校になる。それまでの子どもたちというのは 望む学級数ではない 超マンモス校といったところで 市としては仕方ない 犠牲	再編計画原案の学校区割は、子どもたちのことを最優先に考え、様々なパターンを検討した結果です。現時点でどこから学校再編が進められていくか、何年かかるかも決定していません。仮に学校再編を進める過程において、望ましい学校規模とならない

自由意見（質問）	市の回答
になってくれというような形で 考えている ということか。それとも適正な規模になるまで、令和 45 年度の間に 再編を小さく行いながら 最終的に 600 から 1000 人の義務教育学校の 適正数になったときにそこは行うという感じなのか。段階的にしていくということとは考えていないのか？	場合には、校舎の建て方や運営方法など、教育活動に支障がないような工夫をし、対応することになると考えています。
合意できたところから再編を行うとのことだが、明正学区での合意はどういう風にとられるのか？明正学区というのは合意の対象になっているのか？	現在策定を進めている学校再編計画は、現時点での様々な条件やパターンを検討した結果の学校の将来構想であり市教育委員会が目標とする大きな枠組みを示したものです。明正学区のみではなく、他の学区の地域の皆様のご理解ご協力なしに進めていけないものではないと考えていますが、学校再編は様々な事情を考慮し最終的に市が判断するものと考えています。
10 年 20 年の計画とのことだが、今トイレなどの改修などは何もしないってということでしょうか？	学校施設の改修や長寿命化、空調設備の設置等の環境設備は、財政負担の軽減や平準化を図り、学校施設適正管理計画において、適正に対応しています。
反対したら廃案になる可能性があるのか？	現在策定を進めている学校再編計画は、現時点での様々な条件やパターンを検討した結果の学校の将来構想であり市教育委員会が目標とする大きな枠組みを示したものです。目標である計画をなくすことは考えていません。市教育委員会としては一年でも早く子どもたちにとってより良い教育環境を実現して参りたいと考えていますが、地域の意見や今後の社会情勢の変化などにより計画の見直しは必要と考えています。地域のご理解ご協力なしに進めていけないものではないと考えています。
小学校、中学校は、一体化するということで、中学生がやさしくなったと話があったが、逆もまたしかりだと思う。2021 年に学校で中学生が小学生低学年に、性暴力を加えたということがあった。そういう点についてどう思われるか？	そのような事案があったということをし、しっかりと教員間で共有化を図って参りたいと考えています。
同一敷地内の建て替えは不可能と断定されていますが、ある市の小学校はプレハブを建てながら、2 年ぐらいで小学校を建て替えられている事例を知っている。実際にいろんな全国の小学校で、古くなっているので建て替えながら、新しくするところがいっぱいあると思う。不可能と決めつけるのはおかしい。決めつけないで欲しいのと、小中一貫にこだわらないで小学校の合併っていうところを、検討してもらうことができるのか？	市では「望ましい学校教育のあり方について」の答申に基づき、令和 2 年度から小中一貫教育に取り組んでいます。小中一貫教育の更なる充実を図るため、小中学校再編計画では小学校だけの統合は考えていませんが、具体的に再編が進む過程において判断されていくものと考えています。
義務教育学校の件について、先進校で成功した事例というのを、3 つ 4 つでも構わないので教えていただきたい。	東京都品川区、京都府京都市、兵庫県姫路市、広島県呉市、東京都府中市 他。
伊藤市長が先日の定例会見で、こういう子供の意見を取り入れることが大事だと思うということで、小学生、中学生に資料を出すということですが、これはかなり時間がかかるように、私は思うんですけど、一方では、教育委員会は 12 月に原案をまとめ、来年	現在、子どもたち向けの説明動画を作成中です。子どもたちの声を伺う準備をしています。

自由意見（質問）	市の回答
1 月パブリックコメントを行い 3 月に、正式に計画案を決定すると。そういうことに矛盾を感じる	（前掲）
多度学園を作るのに、10 年かかったと資料にある。もっと、数年かけて再編の進め方を含めて検討すべき。	ご意見としてお聞きします。
給食部分に一切触れてないと思いますが、子供たちの健やかな成長とかを考えると、やっぱり食べること、食の事を親たちは心配してると思う。例えばオーガニック給食の部分に目を向けていただくとか、子どもたちは食べることは非常に大事で楽しみにしていることかなと思うので、そういったところにも意識を持って行ってほしい。桑名市は農業も盛んですし、その食材を使用するということは、農業の方も潤うということになると思う。	ご意見としてお聞きします。
教師としての経験から、600 人から 1000 人規模の学校がふさわしい規模だとは思わない。多くの教師で子どもたちを見ているからきめ細かい指導ができることであつたが、同学年は見れるかもしれないが、多学年まで把握はできない。小規模の方がきめ細かい指導が過去はできた。ただしクラス替えが無いので人間関係の固定化を危惧し、別の取組みを行い、小規模校のデメリットをなくした。 6 年生の卒業の気持ちや新入学の期待を感じるためには施設一体型ではない方がいいと感じる。	ご意見としてお聞きします。
各地域の小学校単位で説明会をぜひお願いしたいのだが、どのようにお考えか？	各小学校区の自治会連合会、PTA、まちづくり協議会からご要望がありましたら、意見交換会等を行いたいと考えています。
指定された学校よりも近い学校がある地域の方も多くいると思うが、子どもたちの通いやすさ、学びやすさそういったところから進学できる学校を堅牢することはできないのか？自力で通えるところに通わせてあげたいと感じる。既存コミュニティの見直しから学校区割を考えてほしい。	お住まいの地区毎に指定された学校に通っていただくことになります。再編することによる児童生徒への影響など、様々な検討・評価を行った結果の原案となります。ご意見として承ります。
明正中学校の廃校に衝撃を受けた。 地域毎に生徒数、児童数、コミュニティ様々なのに、同じように進めていくということに疑問がある。順番にしていくという方法はないのか？多度学園の検証、経過をみながら 5 年後辺りに策定していくのはいけないのか？	令和 5 年に実施した市内の児童生徒数の推計結果において、想定を超えるスピードで児童生徒数が減少していくことが結果として推測されました。多度学園が令和 8 年 4 月に開校し、検証は行ってまいります。そこにはかなりの期間を要することになります。その期間を経て、計画を作り出してはさらに期間を要することになります。市としては、1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、学校再編計画の策定は進めてまいります。なお、計画後、再編を進めていく過程において、多度学園の検証結果は反映いたします。
10 年後、20 年後の児童・生徒の人数について話をされているが、まだ生まれていない子、これから生まれてくる子たちの事である。であるならば、児童・生徒を増やすための政策が行政の務めでは？	市では、「桑名市人口減少対策パッケージ“14”万リバウンドプラン」として、人口減少の対し、生産年齢人口の「流入促進」「定着環境整備」「流出抑制」の 3 つの

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	フェーズに応じたそれぞれの施策に取り組んでいます。
集いの場では、大体 50～90 歳ぐらいの方が見えての学校再編ということについてはとても興味を持っていて、自分たちの場所でも、どうなっていくのかっていうのは、とても心配されている。地域のコミュニティ地域に配慮するということだったが、再編されることによって、せっかく根づいているコミュニティが、うまく活動していかないのではないかっていうところを心配している。防災面などももう少し丁寧に説明していただきたい。	ご意見としてお聞きします。
地域の方からの温かい支援が減ってしまうのでは？放課後に子ども同士が遊ぶとなった時に、今回の計画案となると、ものすごく遠い友達の家に遊びに行くとなると非常に心配になる。	地域から学校がなくなるからといって、地域と学校の連携が弱まることであってはならないものと考えています。地域範囲が広がることにより、子どもたちがそれぞれの地域に根付いた多様な文化に触れ、より一層の連携や協働が期待できると考えており、様々な地域の力を活かした教育活動に取り組み、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。
学校の先生に今回の計画についてしっかり周知はしているのか？支援が必要な子も多くなってきており、本当に 30 人から 35 人が適切なのかどうか。	校長会を通じて周知はしています。なお、1 クラス当たりの児童生徒の人数については文部科学省及び三重県の基準を適用しています。
市役所をこの場所からなくしてほしくない。	現時点で移転などについて決定したものはございません。
コストが不明。他の行政サービスが低下するのではないかと危惧している。 どこから資金を調達するのか。借入？	総事業費については、建設時期、再編の順番によってその規模が大きく変わるため、現段階での試算は行っていません。再編が進む中でお示しできるものと考えています。修繕費が年々増加する中、再編して新たな学校を建設する方が、長期的には財政負担の軽減につながります。
今後どうやって決めていくのか？ 地域との合意についてプロセスを具体的に教えてほしい。 教育長は原案は進める、反対しても関係ないという言い方であった、市長は市民の声を聞いていく、司会の方もこの計画は決定していないとの話しであった、これは矛盾していないか。	計画は現段階での学校の将来構想であり、市教育委員会が目指す姿（目標）をお示したものです。その目標を白紙撤回することは考えていませんが今後、地域のご意見や社会情勢の変化などによる見直しは考えているところです。また、具体的にどこから学校再編が行われるか、何年かかるかも現時点では決定していません。多度学園では、一から検討を始めて 10 年、基本構想基本計画策定から 6 年かかっています。市では保護者、地域等のご理解ご協力を得ながら 1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、そのためには、再編の要望をいただいた地域から進めていければと考えています。
小中学校再編計画には、登校にかかる時間が増えるなどの心配がある。しかし、再編計画に期待していることもある。	小中一貫校では、子どもの成長段階に応じて、生活スペースを棟や階層で分け、その

自由意見（質問）	市の回答
それは規模が大きくなることで、生徒の個性に合わせて支援してもらえるような体制づくりがしやすくなること。 通っていた大山田北小学校にあるにじいろという教室は、さまざまな事情により自分のクラスには登校しづらい児童が通っている学校内の居場所。時間ごとに授業のない先生が交代でにじいろに来て、守ってくれることが特徴であり、一人一人がクラス担任から受け取った課題を行います。この教室でいろいろな先生にお世話になって、居場所ができたと中学生になった今でも思う。 こういった場所は小規模な学校だと、先生が少なく、作るのが難しいのではないかと思う。各校にこういった場所ができるといいなと思っているが、再編計画によって造られる学校にこういった場所がつくられる可能性はあるのか？	うえで教育活動の中で意図的に交流できるスペース等で異学年交流を進めていきたいと考えています。
学区という言葉は日本の法律にはどこにもない。これは全部検索して調べました。使わないでください。生徒数の予測など資料の数値について、意図しなくても嘘が多い。やり直すべき。	児童生徒数の推計は、人口推計の基本的な手法であるコーホート要因法に基づき実施しています。なお、令和 5 年度に申請のあった大規模開発については、児童生徒数の推計に含めていますが、それ以降の想定される都市開発や経済状況によって左右される不確定な要因については、推計の客観性、中立性の観点から含めていません。なお、今後の社会情勢の変化等により児童生徒数が増減し、推計に大幅なズレなどが生じた場合、再編計画の見直しを検討することを考えています。
今回の説明 30 分のスライドだけで、私はいろいろ飲み込めないことが多い。 この説明会が施設一体型小中一貫校の建設ありきで、箱物を建てただけにしか聞こえない。子どもの数が減ることと、校舎が老朽化していくことが、施設一体型小中一貫校の建設をすることとは話が別。 なので、小学校単位での説明会も必ず開いていただきたい。 今回本当に最初の方も言われていましたが、別の会でも友人や家族が参加している。かなりの方が不安を感じていたということを聞いているが、本当に将来、子どもたちにつけが回っていかないよう、民意が必ず反映されるように祈っている。	ご意見としてお聞きします。
コンサル会社に業務委託をされていると思うんですけども、その業務委託の方の役割はどのような形で入って、この計画に反映されているのか。 資料ですが、東京の方で同じような再編計画をされている市町と同じような方法で書かれている。何かテンプレートでもあるのかと感じた。	桑名市ホームページにも公開していますが、桑名市立小中学校再編計画策定支援業務仕様書のとおり、コンサルタントには計画の支援業務を行っていただいています。桑名市立小中学校再編計画は平成 29 年「桑名市学校教育あり方検討委員会」からの答申を受け、様々な検討等を行い、市教育委員会主導のもと作成しています。なお、今回の説明会資料は市独自のものです。
新聞にも出ていたが、約 30 年後に今の子どもが現在の半分以上という予測の新聞がトップ面に出ていた。これも確実な問題であって、予想に反してもっと早くなるかもしれないと、それに対して 何らかの 手を打	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
たなけりゃならない。今のうちに打たないと大変なことになると感じている。 多度の施設を見て素晴らしい施設だな という感想は受けた。それに当たって 本当に それを造ったことに対して いろんな プランがあって いろんなものを乗り越えて 造ったんだろうなというのは想像に絶する。 昔同じような学校の統合の話しで問題が起こった時にある自治会長の家に市議会議員が来て 反対しないと百条委員会にかけるぞという強迫構えの話があった。そういうことのないように、本当に 冷静に判断できるように、そういう問題が 起こらないように 嫌な思いをする人がいないように ぜひ冷静に 話し合ってもらいたいなど。 一番大事なことは 子どもたちを中心にしてもらいたい。生まれてくる子どもたち、今学校に通っている子どもたちを中心に、その子どもたちにとってどんな教育が最善なのか、これをまず中心に入れてもらいたい。 大人の都合で子どもたちを右往左往させてもらいたくない。今の段階で、本当にこの計画がいいか悪いかもわかりませんが、安心して子どもたちには教育できるように、安全で学校教育ができるように、それから、プロジェクトの成功を願っていきたいというふうに私は思います。以上でございます。	(前掲)
多度で、今小学校で担任が2週間でローテーションしているって話を聞きました。 今後、その2週間のローテーションというのを、今後の小中一貫校に組み込まれていくっていうふうに聞きました。 これをするこの意味と言いますか、何を目的としてされてるのか、教えていただきたいです。	チーム担任制と呼ばれるものです。子どもたちをたくさんの大人の目で見ること、その子の良さを引き出しやすくしていくというのが大きな趣旨です。
つくば市の現状（義務教育学校）を認識しているのか。認識している場合、どう考えているのか？	他自治体の事例等については把握しています。 今回の計画原案は市教育委員会が市の学校教育を取り巻く課題の解決を図り、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することを目的に検討した結果です。
令和13年に光風小中一貫校を建設した場合、2,218人の学校。35人学級で割ると63クラス。特別支援学級で6クラスくらいと仮定し、69クラスくらいの学校になると認めていいか？	再編計画原案の学校区割は、子どもたちのことを最優先に考え、様々なパターンを検討した結果です。現時点でどこから学校再編が進められていくか、何年かかるかも決定していません。仮に学校再編を進める過程において、望ましい学校規模とならない場合には、校舎の建て方や運営方法など、教育活動に支障がないような工夫をし、対応することになると考えています。
仮称光風の小中一貫校を令和13年に建てた場合、人数が多くなる。学区をもうちょっと細かく分けてはどうなのか？	再編計画原案の学校区割は、子どもたちのことを最優先に考え、様々なパターンを検討した結果です。現時点でどこから学校再編が進められていくか、何年かかるかも決定していません。仮に学校再編を進める過

自由意見（質問）	市の回答
(前頁のつづき)	程において、望ましい学校規模とならない場合には、校舎の建て方や運営方法など、教育活動に支障がないような工夫をし、対応することになると考えています。
建設場所について、成徳中の拡張は難しいなら、深谷小の周りは農地で拡張できるかわからないが、中学校を作ることはできないか？	整備候補地を検討するにあたり、施設一体型小中一貫校が整備できる広さ（3.2～4.1ha）を有し、地形条件や既存の土地利用、通学圏域などの条件を満たす、全く新しい場所は見当たりませんでした。そこで、ある程度の広さを有する既存の中学校地において検討を行い、現状の中学校地のみで整備することは難しいものと考え、敷地を拡張できる7つの中学校地（成徳・光風・陽和・正和・陵成・光陵・長島）を整備候補地としています。
今の状態がベストではないことが分かる。何かしら対策をしないとダメというのは分かるが、この再編計画の提案というのは、ベストではない。計画策定にあたり配慮すべき事項で挙げられている部分に対する具体的な対策や実現性をもっと詰めてもらわないと、市民は納得できない。内容が薄い。	本計画は現段階での学校の将来構想であり、大枠をお示ししたものです。通学方法や跡地活用などの具体的な内容については、実際に再編を進めていく中で、地域に入り協議検討を行っていくものと考えています。
跡地について、廃校のまま放っておくと荒らされたり、お化け屋敷スポットとなったりしても怖いので、一つの案として NPO にお貸ししたりとかするのもありかなと思う。	ご意見としてお聞きします。
配慮すべき事項で、50 年後くらいを見据え、色々な人が使えるような校舎を造ってもらいたい。また、地域コミュニティへの配慮ということで、小学校の体育館を選挙やクラブ活動の場として使用している。そこがきちんと利用できるような地域との調整も必要だと思う。	ご意見としてお聞きします。
義務教育学校について、9 年間校長が変わらないという保証があるのか？	教員の異動は基本的に 8 年を上限となっています。管理職は特に指定はありませんが、一般の教員よりは短く異動している形になっています。義務教育学校でも同様の対応です。校長の交代時には 9 年間の系統性を確保した教育課程のスムーズな引継ぎが可能であると考えます。
障害をもったお子さんについての配慮は多度学園はどういう風になっているのか。	多度学園では、複数の特別支援教室の設置をはじめ、教室だけではない子供の居場所として諸室を設置する等子どもの特性に応じた対応が出来るように設計しています。また、異学年交流など多くの子どもたち同士の交流スペースもあり、インクルーシブ教育の推進ができるよう教育環境を整えています。
通学の安全性の確保について桑名市としてこういった計画があるのか。	具体的に再編が進む過程において検討されていくものと考えています。また、通学路は通学距離だけではなく、通学路の安全性・高低差等を総合的に考え、保護者や地

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	域、教職員など、関係者の方々と協議の上、決定していきたいと考えています。
拡張場所の件、陵成中学校は大山田東小と大山田第四公園を校地として拡張し、小中一貫校を建設するというで良いのか。大山田東小学校の児童はどうなるのか、騒音や安全面の問題は解決できるのか。	現状、個別の学校についての検討はしていませんが、例えば第四公園に校舎を建てて、建設が完了次第児童生徒は新校舎へ移動をし、その後既存校舎を取り壊して、グラウンドを整備していくという形も考えられます。また、騒音や安全面についてもしっかり対策を行って参ります。
再編はしていかなざるを得ない。新しい学校 6 つの建設する予算や計画はどのようにされているのか。何年後に建てるのか、具体的な案などどういう風に考えているのか。	本計画は現段階での学校の将来構想であり、大枠をお示ししたものです。具体的にどこから学校再編が行われるか、何年かかるかも現時点では決定していません。多度学園では、一から検討を始めて 10 年、基本構想・基本計画策定から 6 年かかっています。市では保護者、地域等のご理解ご協力を得ながら 1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、そのためには、再編の要望をいただいた地域から進めていければと考えています。
建設による国の補助はあるのか。市民の税負担になるのか。	国の補助については 1/2。それ以外に起債の条件によっては、国から交付税措置の可能性はあるが、現時点では何とも申し上げられない。
地域とのかかわりについて、教職員以外の方と触れ合うことで子どもの情緒を育む機会になると思う。地域ボランティアと子どもの関わりについて、だれ一人取り残さない市政をするのであれば、どのように考えているのか。	地域では、自治会をはじめたくさんの活動団体が、暮らしの基盤となる地域を守り、支えていただいております。学校は一つに統合されますが、それぞれの地域で培われている活動については、各連合自治会等やまちづくり協議会の活動とともに受け継がれていくものと考えます。再編が進む過程においては、地域と学校が、連携のあり方を検討していただくこととなります。
今まで歩いて学校行事に参加できていたが、今回の再編で難しくなる地域もあるのでは。	今よりも学校までの距離が長くなる家庭も出てくると考えます。
災害時車が使えないなど、どのように計画をされているのか。	災害時の想定については、地域防災計画の見直しを図られるものと考えています。
一定の集団規模はこどもの年齢によって違う。耐用年数を過ぎている学校がたくさんあることを、市民に見せることを恥ずかしく思わないのか。耐用年数過ぎている学校を今すぐ何とかすべき。多度のような学校、90 億かかる学校を全ての学校につくるのは絵に描いた餅。近くに学校があるということは、家を購入、建てる時の重要な条件の一つ。遠い学校に行かせるのは子どもにとって大変なこと。規模が大きくなることによって、不登校の子どもが増えたり、あるいは問題や通学でも不登校が増えるのではないか。先生たちも余裕がなくなるのでは。	大規模になるから不登校が増えるということは様々な要因があることから一概には言えないと考えます。不登校や不登校傾向にある児童・生徒に対する支援は現在も進めており、今後、大きな規模の学校となったとしても対策・支援は継続して参ります。 開校当初は統合が伴うこともあり、子どもたちだけではなく、すべての先生が新たな環境の中で運営することから、時間がかかることが考えられますが、義務教育学校として小中学校の先生の組織が一つになることで意思疎通は図られると考えています。

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	また、先生の人数が増えることで、多面的できめ細やかな指導が可能となりますし、先生の業務負担も軽減され、より質の高い授業や学校運営を行う環境が整うと考えています。
外国人の子どもたちに対しての市としての対応方針を教えてください。予算や問題について。	日本語習得のために施設に通ってもらい、そのための交通費の支給などを行っています。
再編計画について、学校の先生方にアンケートは取れたのか。先生たちの負担はどうか。	本計画は現段階での学校の将来構想であり、大枠をお示ししたものです。具体的に、再編が進む過程において現場の先生方のご意見をお聞きする予定です。 開校当初は統合が伴うこともあり、子どもたちだけではなく、すべての先生が新たな環境の中で運営することから、時間がかかることが考えられますが、義務教育学校として小中学校の先生の組織が一つになることで意思疎通は図られると考えています。また、先生の人数が増えることで、多面的できめ細やかな指導が可能となりますし、先生の業務負担も軽減され、より質の高い授業や学校運営を行う環境が整うと考えています。
個別の地区説明会をしていただくために、必要な条件は何か。	市開催の中学校区 8 地区の説明会は終了しました。今後、各小学校、連合自治会、まちづくり協議会等からご要望がありましたら調整し、意見交換等を行いたいと考えています。
原案を作った時点で、市役所内でのディベートは行われているのか。財源について等いろいろと説明には矛盾点があると思う。	財源等につきましては、財政当局と協議を進めております。
原案が計画として進んでいく条件を知りたい。	計画は現段階での学校の将来構想であり、大枠をお示ししたものです。具体的にどこから学校再編が行われるか、何年かかるかも現時点では決定していません。多度学園では、一から検討を始めて 10 年、基本構想基本計画策定から 6 年かかっています。市では保護者、地域等のご理解ご協力を得ながら 1 年でも早く子どもたちにより良い教育環境を提供したいと考えており、そのためには、再編の要望をいただいた地域から進めていければと考えています。
順番は未定とのことであるが、優先順位をどうつけていくのか、この点についてはしっかりと考えるべき。施設の老朽化なのか、人数が少ない学級が多い学校からなのか。それによって再編が先になってしまう地区は、小学校同士の統合を含め、つなぎ案のようなものを検討するべきではないか。	市では「望ましい学校教育のあり方について」の答申に基づき、令和 2 年度から小中一貫教育に取り組んでいます。小中学校再編計画では小学校だけの統合は考えていませんが、具体的に再編が進む過程において判断されていくものと考えています。
児童生徒一人ひとりにより良い教育のためと謳われているにもかかわらず、アンケート結果よりも学校あたりの人数が増えてしまった理由は？	再編計画原案の学校区割は、子どもたちのことを最優先に考え、様々なパターンを検討した結果です。現時点でどこから学校再

自由意見（質問）	市の回答
（前頁のつづき）	編が進められていくか、何年かかるかも決定していません。仮に学校再編を進める過程において、望ましい学校規模とならない場合には、校舎の建て方や運営方法など、教育活動に支障がないような工夫をし、対応することになると考えています。
なぜ義務教育学校なのか。	市教育委員会においては、現在進めている小中一貫教育を更に充実させるため、今後の市全域の学校再編を施設一体型小中学校を基本として進める中で、校長1人のリーダーシップのもと教職員組織も1つとすることで、学校運営の舵取りがしやすくなる、教職員間の情報共有や連絡調整がよりしやすくなり、9年間を見通した適切でよりきめ細やかな指導を行うことができると考えています。多度学園開校までにおける様々な協議結果などから市教育委員会が総合的に判断しています。
学校の再編だけでなく、街づくりの観点も同時に考える必要があるのではないかと。防災施設として使っているのだから、その施設の行き先が不安。	廃校後の利活用については地域での利用ニーズ（避難所の役割等）を伺い、学校施設のみではなく公共施設としてどのように活用していくかを検討していく必要があります。
校種や学校の形態を決めてしまうのではなく、地域に合わせた学校を進めていく考えはあるのか。	現在、市全域で進めている小中一貫教育をより効果的に展開できる施設一体型小中一貫校への再編がこれからの時代に合ったより良い教育環境と考えているため、地区によって環境を変えることは考えていません。
今回の説明会では出てこなかった事実がたくさんある。事実を全て明らかにせず、アンケートをとって、その結果を民意として進めるのはおかしいと思う。文科省は住民の十分な理解と協力を得ること、要請が一方的に進める性格ではないことをうたっているが、どのような状態になれば市は十分な理解が得られ、一方的ではない形でこの計画を進められると考えるか。	現在策定作業を進めている学校再編計画は現時点での様々な条件やパターンを検討した結果の学校の将来構想であり、市が目標とする大きな枠組を示したものです。1年でも早く子どもたちにとってより良い教育環境を実現したいと考えておりますが、地域とのご理解ご協力なしで進めていけるものではないと考えており、説明会でのアンケートを総意として進めることは考えておりません。
分散進学について。学校区割はどのように決められているのか。いじめや不登校があった場合に敢えて違う学校に進学したいという児童、生徒、親がいた場合市としてはどのように考えるのか？	再編することによる児童生徒への影響など、様々な検討・評価を行った結果の原案となります。また区域外通学についてもご相談があればしっかり検討して参りたいと考えています。
災害時のマニュアルは？	具体的に再編が進む過程において検討されていくものと考えています。
計画策定にあたり、配慮すべき事項ということで4点挙がっている。これに関して具体的にこうするという提案があって初めてたたき台と言う。これが具体的に何一つ示されていない状況で、これたたき台であ	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
り、原案である、これから適正なものに仕上げていくと言われても、叩きようがない。そんな状況で学校再編を進めていくと言ったって、住民は不安しかない。具体的につくり直してほしい。	（前掲）
アンケートの結果について、現行の学校の配置が望ましいという方が6割以上いるということをよく考えていただきたい。 地域とのつながりについても考えていただきたい。	ご意見としてお聞きします。
小中一貫ではなく、中高一貫の方が良いのでは。高校卒業後の問題も考えなければならない。大学の誘致、専門学校誘致、人口減少を止め、人口増につながる施策が必要ではないか。市と県が協議をしていくべきではないか。	ご意見としてお聞きします。
小学校の再編は必要ないのでは？ 集団規模を適正化というのが中学校というふうになっているので、小学校でそこまでする必要はないのではないか。特に今、教育の中では多様化を認めていくといった中で、文科省も個別最適化と言っております、学級規模をもう少し小さくもって、一人一人きめ細かく見ていくというのが大事になっていると思う。 また、まちづくりという観点から、1つの小学校を残していくということは、まちをしっかりとつくっていくという、桑名のまちをつくっていくという基本的なところで重要になっていくと思う。	市では令和2年より市内すべての学校において小中一貫教育を実施しています。現在は小学校と中学校が離れた施設分離型で小中一貫教育を実施していますが、施設一体型小中一貫校にすることで、児童生徒が日常的に異学年交流ができ、多様な価値観に触れることが可能となったり、小学校・中学校の環境の違いがゆるやかになる、教職員が子どもたちの様子や情報を共有するための打合せ時間の確保など、今、進めている小中一貫教育をより効果的に展開できる施設一体型小中一貫校への再編がこれからの時代に合ったより良い教育環境と考えています。
将来ニーズ・状況が変わった時に見直す予定があるのかどうか？	今後の社会情勢の変化等により児童生徒数が増減し、推計に大幅なズレなどが生じた場合、再編計画の見直しを検討することを考えています。
出生数が減っていく中で、学校再編を含めた改革をする必要があるという点において、前半の説明を聞いてよく現状が分かった。再編していくということは必要なことだなというふうに個人的には思っている。 その中で、施設一体型と施設隣接型の2つの検討の中で、施設隣接型が良いと考えている。同一敷地内に2つの施設を建てるということ自体が、そもそも今の財政的に厳しいから一体型にするのかどうか。その方がすごい分かりやすいというか、同じ土台に乗れるなというふうに思ったので、まず財政的に厳しいから一体型にするのかどうか。 区割については実際の現場の教師の方々の意見をアンケートでなく、ヒアリングとして聞いていただいているのか？	財政が先ではなく、教育委員会としましては、子どもたちの最善の教育環境ということ考えた場合に、様々な課題を解決していく一つの案として、今回お示しさせていただいております。今現在は施設一体型ということを考えておりますが、地区によっては隣接型の選択肢も考えられます。 区割については、現時点での様々な条件やパターンを検討した結果です。具体的に再編が進む過程においては現場の教員等の意見を聞き、反映していくことになると考えています。
説明会が今回で終わるとなっているが、これだけの意見では全然意見を言ってもらっていない。連合自治会単位で説明会をやってほしい、そう思っている。	小学校区の自治会連合会、PTA、まちづくり協議会ごとの説明会については、ご要望がありましたら調整し、意見交換等を行いたいと考えています。
児童が減ってきた小学校で、その空いた空間に小学校の卒業生を、また3年間同じ校舎で過ごすということで、1年生から9年生まで、要は小学校の校舎を使って、単体の小中一貫校はやれないのか？	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
保育士の配置規律であるとか、諸外国に比べて日本はかなり条件が悪い、先生の数が子どもの人数にかなり少ない配置しかされないような国の基準になっている。先生がその子を見れる実質の時間というのは、生徒数、学級規模が大きくなればなるほど減る。日本は身体的な幸福とか学力的な指数というのは諸外国に比べてもかなり高いですけども、子どもたちの幸福指数、幸せだと思っている指数というのはかなり低い。学力を求めるのではなく、生徒が楽しい学校だなと思えるような学校を目指して造っていただければと思う。	ご意見としてお聞きします。
計画というのは住民の合意が得られたら計画が今度 3 月に決定しますと聞いているんですけど、住民の合意というのが一体何なのか、YouTube であるアンケートも特にこの計画に賛成ですか反対ですかという質問はなかったもので、どういうところで住民が合意した、合意していないというところを判断するのか？	現在策定を進めている学校再編計画は、現時点での様々な条件やパターンを検討した結果の学校の将来構想であり市教育委員会が目標とする大きな枠組みを示したものです。説明会でいただいたご意見やアンケート結果などを参考に計画を策定して参ります。 なお、実際に学校再編を進めていくにあたっては、地域のご意見を伺いながら合意形成に努めて参りたいと考えています。
防災の観点で、今、七和、正和はハザードマップとかでいうと、浸水する可能性とかある地域だと思うが、わざわざその場所にみんな集めるのかということと。防災の観点から言って、小学校が使われなくなった場合に、避難場所として小学校をちゃんと維持して、その避難場所を確保できるのか？	学校施設の避難場所としての機能発揮の可能性を踏まえ、浸水地域内にも整備候補地を選定していますが、浸水地域に新しい学校を建設する際には、浸水リスクを十分に考慮し、例えば「床を高くする」「電気などのライフラインの代替手段の準備」など安全対策を徹底する必要があると考えています。また、現時点において跡地利用については未定です。 学校施設は子どもたちの教育活動を営む場だけではなく、地域の防災拠点となっている場合や、夜間・休日にはスポーツ団体等が施設を利用するなど、地域コミュニティの核としての役割も果たしています。そのため、廃校後の跡地利用については、地域での利用ニーズ（避難所等の役割など）を伺い、学校施設ではなく、公共施設としてどのように活用していくのかを検討していく必要があります。また、民間による活用も調査を行うことで検討することもできます。今後、どのような活用の方法が最適であるか、具体的に再編が進む過程において地域等の声を伺いながら検討していくものと考えています。
こんな風に市の行政は市民の声を切っていくという形のが今まですごく多かったですが、今日も切られそうです。 まず義務教育学校にするということを、桑名市教育委員会が言い始めたのは、義務教育学校の言葉を出したのは、今年になってからです。それまでの段階でも、この先ほどの説明の中には、市民アンケートをした結果、こんな回答がありましたとありましたが、市民アンケートには義務教育学校の言葉すら出してありませ	ご意見としてお聞きします。

自由意見（質問）	市の回答
んでした。その言葉も出してないし、義務教育学校がどんなのであるかを説明するアンケートありませんでした。だから私は市議会報告会において、市民アンケートにどうして義務教育学校を、言葉を出さないのか、義務教育学校の言葉を出していないのに、この計画案に賛成ですよということは言えないんじゃないですかということを聞きました。そうしたら市議会の方から、市議会報告会という立場から聞いていただきました。その回答ホームページで載ってます。誤解を招く恐れがあるから載せなかったとなっていました。義務教育学校というのは、教育制度を変えるということです。小学校をなくして中学校もなくして教育制度を変えるというこんな大変なことを、平成 29 年に諮問機関で、あり方検討委員会で一貫校が望ましいとしたから、これを桑名は、この形を踏襲するから、今回義務教育学校にしますという回答です。義務教育学校は、つくば市とか、全国いろんなところでもありました。ちょっと急ぎます。2016 年に安倍内閣が公共施設再編計画の中で、公共施設の床面積を減らすために、義務教育学校というのを、今までなかった文科省の学校種別で作りました。つくば市は、人口が、学園都市としてどんどん増えている場所なので、つくば市はそれを採用しました。2019 年までに 4 校の義務教育学校ができました。しかし、その 4 校の義務教育学校の子どもたちの姿を見て、当時の教育長は、もちろん学園都市です、教育学部の教授だった人が教育長になり、子どもたちの姿を見て、いろいろデータを取りながら、もうこれ以上つくば市では義務教育学校を造らないというふうに決めました。4 校のみです。その後新たには造られていません。というふうに、義務教育学校はやはり子どもにとって大切な発達圏、それから教育を受ける権利をどんどん奪っていきます。小学校の 6 年生の発達圏として、リーダーシップをとりながら、先生と一緒にいろいろな学校行事を、友達と一緒に、とっても嬉しくて、それに対してよかったね、楽しかったねっていう形の、自信と自立の心が育ちます。そして中学校に行ったらこんなことしようという、憧れの中学校に対する・・・とかそういうことも含めて、発達の節目として、すぐく子どもの育つ権利なんです。それを 15 歳が最高学年で、リーダーシップという形にされてしまうと、12 歳の子どもたちの発達圏として、他府県の全国データの中にも、自立という部分、自信を持つという部分が育っていないというのがデータとして出ています、こういうことは。つくば市、茨城県では、登校拒否の方が、数が増えています。この茨城県、全国的にどんどん増えているんですけどもね。だけでもこの茨城県の中で一番多いのがつくば市です。そしてつくば市の不登校児の数のデータは、2024 年度でもまだどんどん増えています。だからつくば市は今は、小学校形態、中学校形態の方向に、少しでも 4 校の義務教育学校を直していけたらいいなというふうな形での動きをしています。こんな義務教育学校を桑名市は説明をせずに、アンケート結果をすり替えて、このまま 29 年の答申にそって、このまま計画は進めますっていうようなことで言	（前掲）

自由意見（質問）	市の回答
いました。今回この計画が策定された来年の3月以降は、この計画があるから進めますと、どんどんいってしまいます。市民の声をきちんと聴いて、みんなで教育を守っていききたいと思います。 多度学園をずっとウォッチングしてきました。開校準備委員会、地域連携部会は混乱しておりますので、ウォッチングしてきました。その中で地域の方が、例えばあそこの交差点の交通量が、もうあのトヨタ車体の大型トラックが通るすごい危険な道路なんです。その横断歩道を渡るんです。地域の方があそこに歩道橋を造ってくれないかというような声も挙がりました。それからもっと前に、多度からプールがまったくなくなるから、せめて多度にプールを造ってくださいという声も挙がりました。地域の声はそういうふうに挙がっていますのに、決定は教育委員会がしますので、そんな答えが返ってきました。そして翌年になると、地域連携部会、それから開校準備委員会、開校準備委員会の中で多度学園は義務教育学校がふさわしいという結論を出したので、義務教育学校にしますという報告があり、それから3年経っています。そんな程度で、この大切な教育制度を勝手に変えないでほしいと思います。それを桑名市全域にしないでください。 それと、とても大切なことを皆さんに報告します。地域連携部会では、その地域の委員さんたちが、見守りをしてくださっている方とか、地域の方たちが、実際に子どもたちが歩く道を歩いて、大桑国道を、あのスピードがたくさん通る大桑国道を小学生の小さい子が、下校なんか一人で帰ってきますね、横断するのは平面交差だと聞いております。これに対して地域連携部会では、歩道橋を造ってもらえませんかという声も挙がりました。まさに詐欺ってかんじです。そして、その次に自治会から大桑国道に歩道橋をかけてほしいという要望も出ました。もしその要望がないなら、信号機を4車線を渡れるだけの時間の変更をしてくださいという要望も並列して挙げたら、予算で無理だから平面交差ですという市の返答でした。 議会で質問をされても、平面交差を多度学園の検討委員会が決定したからと。歩道橋を造らずに平面交差にしますという市議会でした。教育長はそうやって答弁しました。それでいまだにもちろん平面交差です。もう来年の4月から1年生の子がこれぐらいの時間ですね、そして平日ですよ。大桑国道はトラックいっぱいです。ダンプも通ります。それからとても危険なところを一人で下校しなきゃいけません。こんな危険・・・できません。それで今度、市役所の近くに大きな2千人規模の学校ができてしまったら、ごめんなさい、歩道橋を歩くのはすぐなんです。子どもの危険を真っ先に考えて、子どもにとってどんな教育がいいかっていうのを真摯に考えるのが教育委員会だと思いますので、これからも市民の意見は聞いてください。	(前掲)